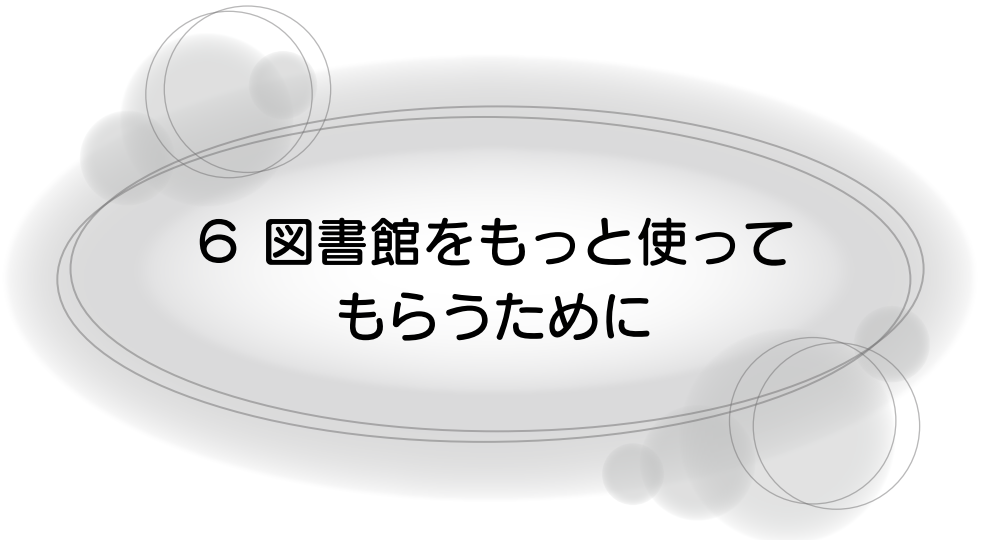




6 図書館をもっと使って もらうために

図書館を魅力的に見せる工夫

図書館の利用を促すためには、図書館の機能や役割、そして活動内容など、充実したサービスを魅力的に紹介することで、児童生徒の関心や期待を高めることが大切です。

(1) 印刷物によるアピール

◆利用案内の作成

図書館の開館時間、資料、利用方法などについてまとめられたパンフレットです。貸出券や予約票、館内案内の絵や図、写真などを取り入れ分かりやすくします。年度始めのオリエンテーション時の配付資料として活用します。

◆図書館だよりの作成

児童生徒向けの図書館報です。図書館のサービスや資料内容を楽しい雰囲気伝えます。(p.82 参照)

◆ブックリストの作成

本の一覧表のことで、ブックトーク（本の紹介）や展示などの活動とあわせて作成すると効果的です。

(2) 印刷物以外のアピール

◆校内掲示板等の利用

全校生徒が目にする場所に図書館掲示板を設け、利用を促すポスターや壁新聞形式の図書館だよりなどを掲示します。

また図書館近くの廊下や図書館入り口に、図書館へのアプローチとして本が迎えてくれるような雰囲気を作るとよいでしょう。

◆校内放送の利用

給食時間などを利用し、定期的に『図書館の時間』のようなプログラムを組み、図書館の行事や新しく入った本の紹介などをします。

また校内テレビがある場合には、図書を見せたりするなど、その方法をより視覚に訴えるようにします。

《参考文献》『子どもが生き生きする学校図書館づくり』渡辺暢恵 黎明書房 2008



図書館へ続く階段踊り場の掲示版（H小学校）



子どもへ呼び掛けるように、掲示（N 小学校）

図書館だより

1 か月に 1 回、または学期に 1 回など、定期的に発行しましょう。

印刷する場合には一枚物のチラシや冊子式のもの、印刷をしない場合には壁新聞のような形があります。いずれの形式でも、児童生徒が図書館だよりを読みたくなるようなものを作りたいものです。

<作成の流れ>

◆内容

利用方法のPR、行事や新しく入った本の紹介、図書委員会の活動紹介、よく借りられる本ベスト5、図書室からのお願い、図書クイズなど、文字ばかりでなくイラストやクイズなどを織り交ぜて、児童生徒が喜びそうな楽しい紙面にします。

児童生徒が読むことを目的にする場合は、小学校であれば低学年のためにふりがなを振りましょう。保護者に向けて書く場合は、小さな字で囲んで書くとよいでしょう。

また児童生徒の名前を載せるときは、プライバシーに配慮しましょう。

◆レイアウト

原稿が集まったら、レイアウトを考え見出しを付けます。これらは紙面にメリハリを与え、児童生徒の関心を引くかどうかのポイントになるのでとても大切です。ぎっしり書くと読まれないので、余白を十分に取り、カットも多く取り入れましょう。用紙も色紙などを工夫して使います。

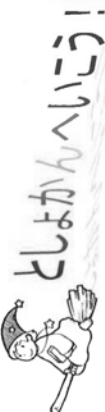
◆「図書委員会だより」と一緒に

図書委員会があれば、作成を委員会の活動に任せるのもよいでしょう。きっと大人では考えつかないような楽しい企画が出てくると思います。

《参考文献》『子どもが生き生きする学校図書館づくり』渡辺暢恵著 黎明書房 2008

としょかんだより

5月



4月は、267冊の
本がかりられました。

ぬけるようなあおぞら、めにあざやかな
しんりよく、はなばなもたくさんさいて5月
は、1年中でいちばんさわやかですこしやしい
きせつです。

こんなときは、じぶんのおきにのりの本をとしょかんで
さがしてきて、さわやかなかせをうけながらそとでよむのも
きもちがいいよ！

さあ、みんなでとしょかんに本をさがしにいこうよ！！



おもしろい
ほれ

としょかんのろうかか、5月におすすめの
本をしようかいしてよこにおいてあります。
おせつにびつたりひのさわやかな本です。い
ちどよんでみませんか？

- ☆ひやっこちゃん ☆つるばら村のはちみつ屋さん
- ☆花さき山 ☆わにぼろのこいのぼり
- ☆どべとべこいのぼり ☆ありがたう
- ☆ようこそタンボロしよくどうへ



本をはやくさがせるようになろう！

としょかんの本は、おおきく0から8巻までのほんごうに
わかれてあります。薄平しろうがっこうのとしょかんは、はいっ
てみぎうえに、それをもととすぐにはわけてあります。また、ラベル
をさがすとき、これをもととすぐにはわけてあります。また、ラベル
のいみや本のあらわがたのきまりをわけておくと、はやくさが
せてとてもべんりです。

00	くろ	しらべる本（年かん、百科じてんなど）
10	あお	かみさまのはなし、よいおこない
20	だいだい	むかしのこと、とちのようす、えらい人のななし
30	みどり	わたしたちのくらし、しゃかい
40	ちやいろ	りか、さんすう
50	きいろ	こうぎよう
60	はいいろ	いろいろなしごと
70	きみどり	おんがく、たいいく、ずこ
80	むらさき	ことばとさくぶん、じてん
90	あか	どうわ、ものがたり、し、えほん

としょかんのおしらせ

- 5月の「よみきかせ会」を、26日(水)のあさどくしよの時
におこないます。
- おんせんぼの A さんから本をたくさんいただきました
ので、ぜひよんでください。
- Y 町におすまいの B さんから Y 小のみなさんに
と、本のきどうががあります。本がきたらすぐにおしらせ
します。



ブックリスト

(1) ブックリストとは

- ・ブックリストとは、ある基準で選択され、本を薦めたり、紹介したりするために作られた本の一覧のことです。
- ・児童生徒が調べ学習等で自分の課題を見つけたり、課題に沿った資料を探しやすくしたりするなど、どんな本を読んだらよいか迷っている児童生徒の手がかりとなる一覧表です。

(2) ブックリストを作成する

- ・テーマや学年などに合わせて、紹介したい本を決めます。
- ・リストには、書名、著者名、出版社、出版年などの本の手がかりとなるような本の情報の他に、請求記号や短い内容紹介の文章を加え、目的の本が探しやすいようにします。
- ・表紙の写真や挿絵を載せるとイメージがわかりやすいのですが、表紙や挿絵には著作権があるので勝手に使用することはできません。掲載したい場合は、出版社へ問い合わせて相談しましょう。
- ・ブックリストの作成に当たっては、蔵書の見直しや読み直しが必要になりますが、蔵書に精通し、また、蔵書を再評価するよい機会になります。

(3) 様々なブックリスト

○ 新着図書リスト

図書館に新しく入った本を紹介するものです。なるべく早く、児童生徒にその情報を届けます。

○ テーマ別リスト

児童生徒が興味を持つようなテーマ（魔法、お化け、恐竜、宇宙など）、季節や行事に関連したテーマ（七夕、クリスマス、修学旅行など）、あるいは学習に関連したテーマなどで作成します。

《参考文献》

『子どもが生き生きする学校図書館づくり』 渡辺暢恵著 黎明書房 2008

『児童図書館サービス論』（新訂版） 赤星隆子・荒井智子著 理想社 2009

本の展示

本の展示には新しく図書館に入った本を知らせる「新着図書の展示」と、ある一つのテーマで本を集める「テーマ別展示」があります。

(1) 新着図書の展示

新着図書はすぐ借りられてしまうので、ケース、表紙をコピーしたもの（著作権許可を取ることが必要）、ブックジャケット、本の帯などを利用して展示する方法があります。

これらを厚紙に貼って書架の上に置いたり、掲示板に貼ったりすれば、本が貸出中でもどんな新着図書が入ったか分かり、予約もできます。この展示は、新しい本が入るたびに取り替えていきます。

(2) テーマ別図書の展示

展示のテーマは、ブックリストと同じように児童生徒が興味を引くようなもの（季節や学校行事、学習内容などにちなんだものなど）で、できれば年度初めに年間展示計画をたて、それに沿って行いましょう。

テーマが決まったら、児童生徒が注目するようなキャッチコピーを付け、コーナーを作ります。

(3) 展示方法

- ・コーナーを作る場合は、入口付近など、人目を引きやすい場所に展示します。
- ・展示コーナーとして、専用のケースや展示架もありますが、ない場合は、普通の書架や閲覧机なども使用できます。机に布をかけて展示テーブルにすることもできます。
- ・看板を作ったり、小物を置いたりなど、見ただけで読みたい気持ちがわくようにディスプレイにも工夫します。
- ・「面出し（表紙見せ）」といわれる、本の表紙を見せる置き方をしたり、開いて挿絵を見せるようにするなど、本の並べ方も工夫します。見せ方によって、それまで手にされなかった本でも、急に借りられるようになることもあります。（展示コーナーでなくても、書架に空いた棚があれば積極的に面出ししましょう。）
- ・変化をつけて視覚的に人を引き付けるようにします。それには、展示

用イーゼルや斜めに本を立てかける書架などを使うとよいでしょう。
展示用イーゼルは、手作りもできます。

- ・簡単な内容紹介を一緒に掲示したり、ブックリストを一緒に提供したりすると効果的です。

役に立つこの一冊！

『楽しもう！学校図書館ディスプレイ』さわださちこ／著
全国学校図書館協議会 2009

※ディスプレイのアイデアが写真入りで12カ月分掲載されています。

『新図書館ごよみ12ヶ月』全国学校図書館協議会／編 2005
※展示の工夫、掲示や通信の文例や課題解決に役立つブックトークのテーマの例示などが掲載されています。

《参考文献》

『児童図書館サービス論（新訂版）』赤星隆子・荒井督子著 理想社 2009

『（改訂版）子どもが生き生きする学校図書館づくり』渡辺暢恵著 黎明書房 2008



面出して展示中！（H小学校）

雰囲気作り

図書館に児童生徒を招くための手立てで大切なことは、雰囲気作りです。図書館に行くと何か楽しいことを発見できる、図書館に行くとほっとできるという雰囲気を作りましょう。

○ 館内レイアウト

館内の閲覧席には限りがありますが、利用者である児童生徒が落ち着いて読書をしたり、学習をしったりすることができるスペースを作ることがを心がけましょう。例えば、リラックスして雑誌や軽い読み物などを読むことができるブラウジング・コーナーに、ソファやスツール、カーペットを敷くなどすると、さらに雰囲気が変わります。

○ 視覚的にやわらかな雰囲気を

グリーン（観葉植物）を館内に置いてみましょう。緑が目に入ると、それだけでほっとします。ただし水には注意しましょう。

また、カウンターや小さなテーブル、低い棚などに布をちょっと置くだけで雰囲気が柔らかくなります。

○ 小物・小道具

《壁面掲示》 絵本の原画をポスターにしたもの、季節を感じさせる詩、児童生徒の感想画・感想文など、児童生徒に資料要求や読書意欲を引き起こす掲示物を工夫します。

《飾り》 季節の行事に合わせた本の展示をしたときは、それにちなんだもの、例えばクリスマスならクリスマスツリー、ひな祭りならひな人形を飾るなどすると、温かい心遣いが伝わります。

また、教科活動を支援するためには、教科に関連した標本や模型などを展示したり、児童生徒の作品を紹介するコーナーを作ったりすると楽しさや面白さが広がります。

《留意点》 図書館の主役は本です。本以外の展示物が多くなると、逆に落ち着かない雰囲気になってしまいます。ただ飾るのではなく、本と児童生徒を結びつける手助けになるということを念頭に、雰囲気作りに心掛けましょう。

また、小学校では低学年から高学年まで利用するので、飾り付けが幼稚になりすぎないようにしましょう。

《参考文献》

『子どもが生き生きする学校図書館作り』渡辺暢恵著 黎明書房 2008

『学校図書館入門』渡辺暢恵著 ミネルヴァ書房 2009

『教育課程資料第121集 学校図書館運営の手引』岡山市教育委員会 1997

『司書教諭はじめの一步』図書館流通センター発行 2002



ソファは生徒に大人気（H中学校）

H 小学校 図書館内図





p.89 館内図のH小学校の畳。冬にはこたつも出ます。



入口正面のグリーンに、
心が落ち着きます。
(K 小学校)



オリジナル図書館
キャラクターが登場！
(C 小学校)

図書委員会の運営

小・中学校には、特別活動の一環として図書委員会活動があり、その活動には、図書館業務や本への興味・関心を高めるとともに、児童生徒の自主性・責任感・社会性をはぐくむ意義があります。

(1) 図書委員会の活動

図書委員会の活動は、毎日の活動と、年間を通した活動の2種類があります。

毎日の業務	貸出、返却のカウンター業務、集計、書架整理・美化など。
年間を通した業務	読書週間等のイベント企画、集会活動、図書委員会だよりの作成、企画展示など。

ここで大切なことは、まず児童生徒自身が、学校図書館がもっとよくなるためにどのようなことに取り組みたいかを話し合うことです。自分たちの活動によって、学校図書館はよくも悪くもなるという責任と自覚を持たせることが大切です。

その後、それぞれの役割分担を決め、学校の年間行事との兼ね合いを考えながら、学校図書館を活性化させるアイデアや計画を考えさせ、取り組ませましょう。

児童生徒から出された企画（例）

図書紹介企画展示、図書クイズ、校内放送での本の紹介、
昼休みお話会、集会での本の紹介や紙芝居・ブックトーク・
ペープサートの実施、マナーアップポスター作成

(2) 図書委員への指導

学校図書館は教育の場でもあります。図書委員会担当職員が一人で

きてしまうことでも、児童生徒に役割を持たせ、計画を立てさせて全員で取り組み、そして達成感を味わわせることが大切です。

図書委員会担当教諭や学校司書等の連携・協力のもと、図書委員になった児童生徒が責任を持って活動できるようにするとともに、読書が好きになるよう指導・助言していくことが大切です。

図書委員になった児童生徒に、図書委員の業務を指導するのに参考となる資料を以下に紹介します。

これらは、児童生徒が自分でも読めるように書かれていますが、図書館業務担当になった初心者が概要を学ぶのにも役立ちます。

役に立つこの1冊！

◆小学生向け

『今日から図書委員 小学校版』全国学校図書館協議会編
全国学校図書館協議会 2004

◆中高校向け

『今日から図書委員 中高校版』全国学校図書館協議会編
全国学校図書館協議会 2004

《参考文献》

『子どもが生き生きする学校図書館づくり』渡辺暢恵著 黎明書房 2008

『教育課程資料第121集 学校図書館運営の手引』岡山市教育委員会 1997



ボランティアとの連携

文部科学省の平成 20 年度「学校図書館の現状に関する調査」によると、小学校 75.5% 中学校 20.4%でボランティアが導入されています。

(1) ボランティアの活用

ボランティアの活用として、以下のような支援をお願いすることが考えられます。

- ①読み聞かせ、ブックトーク等、読書活動の支援
- ②学校図書館の書架見出し、飾りつけ等施設の整備に係る支援
- ③排架や貸出・返却業務等、図書館サービスに係る支援 など

前述の「学校図書館の現状に関する調査」によると、①の支援を受けている学校が 73.2%と一番多く、続いて②の学校図書館の環境整備などで支援を受ける学校が増えています。

(2) 学校図書館ボランティアを探すには？

ボランティアを探す場合、まずは身近な地域の自治会やPTAに相談してみましょう。

また、大分県内には、「学校支援地域本部」が、平成 22 年 4 月現在、56 カ所設置されており、学校支援活動等のボランティアを募集していますので、こちらに相談することもできます。

○県内の学校支援地域本部一覧

【おおいた協育ネット ホームページ】

<http://www.oita111.jp/k-net/knet-menu.htm>

さらに、大分県立図書館・子ども読書活動支援センターでは、県内の読み聞かせグループ等の調査を行い、その情報を提供するサービスも行っています。ホームページから市町村別のグループ一覧表を見ることができますので、ご利用ください。

【大分県立図書館ホームページ】

「子どもに役立つ情報を知りたい」 > 「県内の読み聞かせグループ一覧（PDF）」

<http://library.pref.oita.jp/>

（３）ボランティア協力を受ける際の注意事項

① 支援して欲しいことを明確に

学校図書館を経営する側として、基本的に学校がしなければならないことは何かを全教職員で共通理解し、その上でボランティアにどの部分を依頼するのかを明確にして、ボランティアと活動内容についてよく話し合うことが大切です。

自発的に活動をするボランティアであっても、運営の中心は学校です。学校図書館の運営・管理のすべてをボランティアに依頼することはできません。

② 学校側に核となる職員を

学校側に核となって動く教職員がいないと、ボランティアは十分に活動ができません。その核となる教職員とは、司書教諭や図書主任などそれぞれの学校によって様々です。教育委員会の方針や学校運営の方針に基づき、校長を中心として十分に共通理解しておくことが大切です。

③ ボランティアは学校司書の代わりではない

ボランティアは、本と児童生徒をつなぐ学校司書の代行にはならないことを自覚して、支援をお願いすることが大切です。

《参考文献》

『子どもが生き生きする学校図書館づくり』 渡辺暢恵著 黎明書房 2008